

（3）領域別に分けた余震活動推移

余震域（図1-1の領域a）を短冊状（図3-1の領域b～e）に分けた活動の推移を図3に示す。全体的に余震活動は少なくなっている。陸域の領域bでは、主に2016年12月28日の茨城県北部の地震（M6.3）の周辺で余震活動が見られる。沿岸域の領域cでは、2016年11月22日の福島県沖の地震（M7.4）の周辺などで余震活動が見られる。東北地方太平洋沖地震発生以前（2001年から2010年）の1年間に発生するM4.0以上の地震の標準的な回数（年平均値や年中央値）と比較する（表3-1）と、領域b,c,eでは本震発生以前に比べて地震回数の多い状態が継続している。

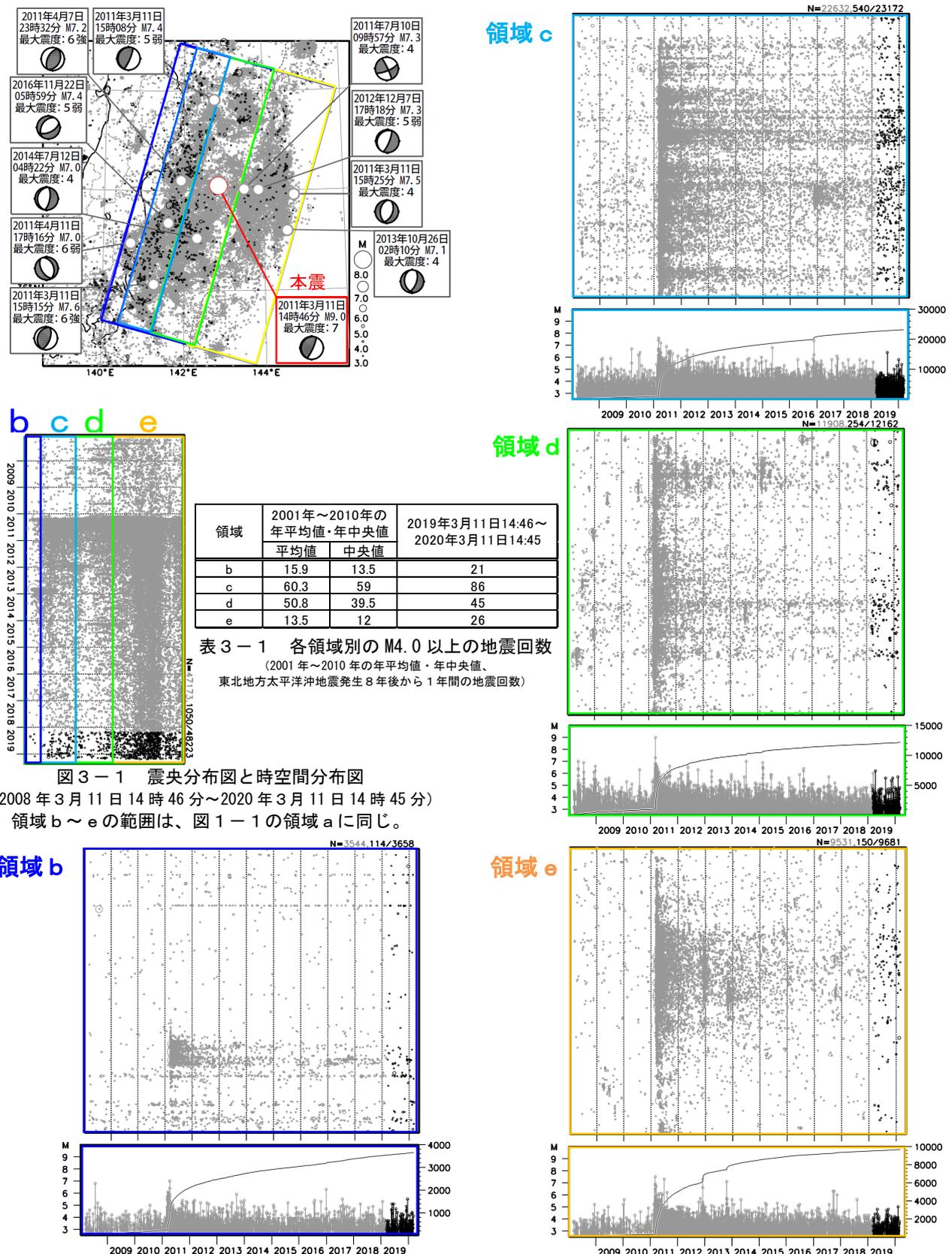


図3-1 震央分布図と時空間分布図
(2008年3月11日14時46分～2020年3月11日14時45分)
領域b～eの範囲は、図1-1の領域aと同じ。

図3-2 各領域（図3-1の領域b～e）の時空間分布図とM-T図及び回数積算図
(左下：領域b 右上：領域c 右中：領域d 右下：領域e)